

令和元年度  
自然体験活動等長期研修

# 研修報告書

研究課題

生徒のコミュニケーション能力を育むための研究  
ー話し合う集団をめざしてー

萩市立須佐中学校

教諭 徳原直也

(令和元年度自然体験活動等長期研修教員)

# 目 次

## 1 研究の意図

- (1) 研究の背景
- (2) 研究テーマ設定の理由
- (3) 研究の仮説

## 2 研究の内容

### (1) 研究の方法

- ア 本研究におけるコミュニケーション能力
- イ 研究の流れ
- ウ 調査に関して
  - (ア) 調査のねらい
  - (イ) 調査対象
  - (ウ) 調査内容・方法

### (2) 研究の実際

- ア 実践事例①→考察
- イ 実践事例②→考察
- ウ 実践事例③→考察
- エ 実践事例④→考察

### (3) 研究の結果と考察

- ア 3つの要素別の分析
- イ アンケート項目別の分析
- ウ 話し合う集団づくりのポイント

## 3 研究のまとめと今後の課題

- (1) 研究のまとめ
- (2) 今後の課題

### **参考資料 1** AFPY の活動について

- 1 AFPY について
- 2 萩市・阿武町の各中学校における AFPY 活用状況
- 3 最大限の相互尊重（5つの約束事）
- 4 自己選択・自己決定

### **参考資料 2** 主な AFPY の活動名称及び活動の手順

# 生徒のコミュニケーション能力を育むための研究 －話し合う集団をめざして－

萩市立須佐中学校 教諭 徳原 直也

## 1 研究の意図

### (1) 研究の背景

中央教育審議会答申（平成28年12月）では、豊かな心や人間性を育てていく観点において、子どもたちが様々な体験活動を通じて、自分の価値を認識しつつ他者と協働することの重要性などを実感し理解できる機会が限られていることが指摘されている。そこで、子どもたちが社会で活躍することとなる未来を見据えながら、「生きる力」の理念を具体化させる必要性が提言されている。その中で、対話や議論を通じて、自分の考えを根拠とともに伝え、他者の考えを理解し、自分の考えを広げ深めたり、集団としての考えを発展させたり、他者への思いやりをもって多様な人々と協働したりしていくことが重視されている。

山口県教育委員会では、3つの力「学ぶ力・創る力・生き抜く力」、3つの心「広い心、温かい心・燃える心」を軸として教育振興基本計画が作成されている。その中で、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた学習指導の充実や、主体的に考え他者の考えを通して道徳的価値の自覚を深める道徳教育の充実の必要性が明記されている。また、学校・家庭・地域が連携・協働したコミュニティ・スクールを推進しており、コミュニケーション能力は学校内外を問わず求められるものである。

### (2) 研究テーマ設定の理由

原籍校には、授業中、自ら挙手をして発言できる積極的な生徒がいる一方、その他の生徒は指名がないとなかなか発言することができないという課題がある。さらに、毎年のように生徒総会で「積極性」について議論するなど、苦手なことにも積極的に挑戦する主体性やチャレンジ精神が低いことが挙げられる。原籍校の1年生で行った実態調査によると、話す活動に対して約7割の生徒が苦手意識を抱いていた。（図1）苦手意識のある生徒の記述では、「人前で話すことが恥ずかしい」「考えをまとめることが難しい」などの理由が多く、「自分の意見が正しいかどうか不安」というものもあった。年々生徒数が減少し、人との関わりが限定的になっていく中、日頃の授業や学校行事だけでなく、生徒会活動や部活動の活性化を考えた際に必要とされるものが「コミュニケーション能力」である。生徒自身も課題であることを実感しており、平成30年度の生徒会リーダー研修会では、「コミュニケーション能力を向上させるために」というテーマで話し合いを行い、令和元年度の生徒会チャレンジ目標を「自分の考えを、きちんと伝える」と決定した。

これを受け、原籍校では、「伝える力を育む指導の工夫～学び合う集団づくりをめざして～」を今年度の研究主題とした。また、めざす児童生徒像を小中学校共通で設定し、9年間を通して自分で考え、表現できる児童生徒に育てたいと考えている。研修職員会議では、授業の中で

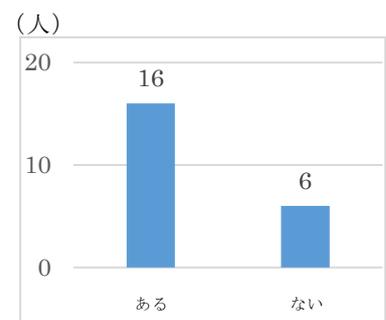


図1 話す活動の苦手意識

相互に伝える場の設定はできているが、「発問・指示の工夫」や「待つ姿勢」、答えだけの発言ではなく「理由を求める」ことが教員間での共通課題として挙げられた。

そこで本研究では、コミュニケーション能力を育むための方法として、十種ヶ峰青少年自然の家の「森のチャレンジコース（以下「森チャレ」）」を利用した AFPY の活動の実践に着目した。生徒が「アイデアをたくさん考えた」、「みんなで協力して達成できた」、「認められてうれしかった」等の思いを抱くことで、自分の考えを他者に伝える能力や、他者の考えを認める姿勢を育むことに AFPY の活動は有効であると考えた。

### (3) 研究の仮説

以上のことから、研究の仮説を「学校生活の中に AFPY の活動を取り入れることで、発言のしやすい環境が構築され、コミュニケーション能力を育むことに効果がある」とし、実践を通して検証することとした。

## 2 研究の内容

### (1) 研究の方法

#### ア 本研究におけるコミュニケーション能力

本研究では、コミュニケーション能力を「自分の考えを他者に伝える能力や、他者の考えを認める姿勢」と捉えた。そして、コミュニケーション能力を構成する主要な要素を「聴く力」「話す力」「伝え合う力」の3つとすることにした。これら3つの要素が互いに関連し合い、コミュニケーション能力は育まれると考える。

教育実践家の菊池省三は、話し合いに必要な力として以下のように説明しており、「言葉」を大切にされた学級経営を推進することが大切であると述べている。<sup>\*1</sup>

- |  |
|--|
| 1 聴く力・・・相手の立場に立って、話の内容を正しく豊かに理解する力           |
| 2 話す力・・・意見や感情、主張を相手にわかりやすく伝える力               |
| 3 伝え合う力・・・自分の考えを伝えるとともに、相手の考えを聴くことで、互いを認め合う力 |

#### イ 研究の流れ

原籍校の生徒を対象に行った AFPY 実践の流れについては、図 2 のとおりである。1年間の研修で学んだ経験をもとに、宿泊学習で十種ヶ峰青少年自然の家に入所した原籍校の生徒を対象にした、AFPY の活動の実践に取り組んだ。

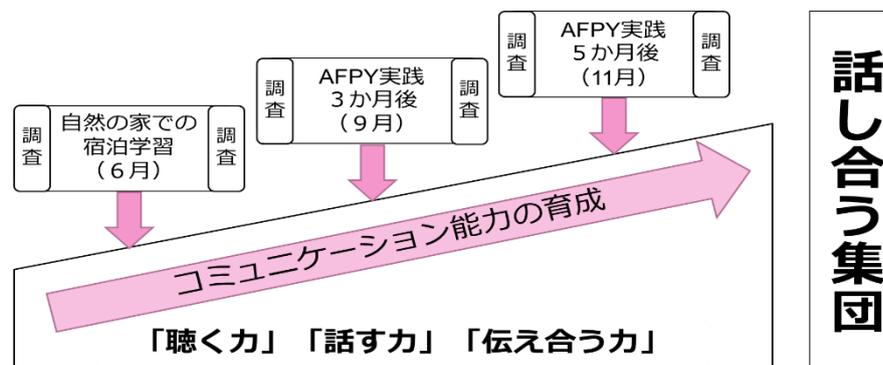


図 2 研究の流れ（原籍校）

## ウ 調査に関して

### (7) 調査のねらい

生徒のコミュニケーション能力の変容を調査する。

### (イ) 調査対象

十種ヶ峰青少年自然の家に宿泊学習で入所した、原籍校の1年生22名を対象とした。

### (ウ) 調査内容・方法

生徒のコミュニケーション能力を客観的に調べるために、全10項目の自作アンケートを用いた。アンケートは、「質問を読んで、あてはまる番号を1つ選んで○をつけてください。」という指示を行い、「とてもあてはまる（5点）、ややあてはまる（4点）、どちらでもない（3点）、あまりあてはまらない（2点）、まったくあてはまらない（1点）」の5件法で回答を求めた。使用したアンケートの様式を表1に示す。

表1 コミュニケーション能力に関するアンケート

番号	質問	とてもあてはまる	ややあてはまる	どちらでもない	あまりあてはまらない	まったくあてはまらない
1	人の話を真剣に聴くことができる	5	4	3	2	1
2	人の話を聴いてメモをとることができる	5	4	3	2	1
3	自分と違う意見にも耳を傾けることができる	5	4	3	2	1
4	自分から大きな声であいさつができる	5	4	3	2	1
5	自分の意見や考えを発言できる	5	4	3	2	1
6	人の顔や目を見て話すことができる	5	4	3	2	1
7	自分の考えを頭の中でまとめることができる	5	4	3	2	1
8	話し合い（学び合い）活動が好きである	5	4	3	2	1
9	グループで出た意見をまとめることができる	5	4	3	2	1
10	意見交換で考えを深めることができる	5	4	3	2	1

調査は、「入所前、入所後」及び「原籍校での AFPY 実践前、実践後」に一斉調査で実施した。なお、本調査の設問は、話し合いに必要なコミュニケーション能力の変容を調べるために、3つの要素で構成されている。表1に示している1～3の質問内容が「聴く力」、4～7の質問内容が「話す力」、8～10の質問内容が「伝え合う力」に関わるものである。

## (2) 研究の実際

### ア 実践事例①「自然の家における宿泊学習（6月）」

#### (7) 実践①の概要

研修目的に合わせて、森チャレを利用した AFPY の活動を実践し、コミュニケーション能力の変容を調査した。

#### (イ) 実践①の実際

実践①の活動内容を表2に示す。

表2 実践①の活動内容

	AFPY 活動内容 (※詳細については、巻末参考資料参照)	留意点
一 日 目	<p>1 知り合うための活動</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ラインナップ</li> <li>・ネームトス</li> </ul> <p>2 緊張をほぐすための活動</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・キャッチ</li> <li>・前後左右</li> <li>・ケンケンパ</li> </ul> <p>3 課題解決のための活動</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ジャイアントシーソー</li> </ul> <p>【ローエレメント】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・振り返り</li> </ul>    	<ul style="list-style-type: none"> <li>○互いの名前や性格等、自分のことを話したり、相手のことを聴いたりする活動を通して他者に関心をもたせるようにする。</li> <li>○全員がシーソーの上に乗った状態でバランスをとるための方法を、みんなで話し合う場面を設定する。</li> <li>○振り返りで、自分の気持ちを伝え合う場面を設定する。</li> </ul>
二 日 目	<p>1 信頼関係を確認する活動</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・トラストリーン</li> </ul> <p>2 意思疎通を図るための活動</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ウルトラマンチェック</li> </ul> <p>3 信頼関係を確認する活動</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・おっかなびっくり</li> </ul> <p>【ハイエレメント】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・振り返り</li> </ul>   	<ul style="list-style-type: none"> <li>○互いの体を安全に支えるために、タイミングを伝え合うことを確認する。</li> <li>○互いの挑戦を支えるために、声かけが重要であることを確認する。</li> <li>○活動を通して感じたことや気づいたことを伝え合うことで、達成感を共有できるようにする。</li> </ul>

(ウ) 実践①の考察

実践①のネームトスやケンケンパなど、知り合うための活動や緊張をほぐすための活動で、楽しみながら心身のウォームアップを行い、安心できる雰囲気づくりに努めた。また、2～3人で意見交換する時間を大切に、コミュニケーションがとりやすい環境をつくった。エレメントを利用した成功体験や個人の挑戦をみんなで支える経験は、自分の考えや気持ちを素直に伝え合うことができる時間になった。

振り返りの中では、「宿泊学習でたくさん発言する機会があった」「人前で話をしたときに、意見を認められるとうれしい」「みんなの意見を聴いて、学ぶことがあった」などの感

想があり、AFPY 及び森チャレの活動を通して、課題解決の方法を考えたり振り返りをしたりする場面において、自分の考えが認められ、他者に対する関心が高まったと考えられる。

## イ 実践事例②「原籍校における AFPY 活動（9月）」

### (7) 実践②の概要

十種ヶ峰青少年自然の家で AFPY の活動を実践した 3 か月後に、学級活動で AFPY の活動を実践し、コミュニケーション能力の変容を調査した。

### (4) 実践②の実際

実践②の活動内容を表 3 に示す。

表 3 実践②の活動内容

AFPY 活動内容 （※詳細については、巻末参考資料参照）	留意点
<p>1 緊張をほぐすための活動</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ゲーパ</li> <li>・「5つの約束事」の確認 (巻末参考資料 1-3 参照)</li> </ul>  	<p>○互いを認め合うための心構えを、AFPY の活動中に意識させるために「5つの約束事」を確認する。</p>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・アイドルとおっかけ</li> <li>・VIP とスナイパー</li> </ul> <p>2 課題解決のための活動</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・チェンジアップ（トランプ ver）</li> <li>・振り返り</li> </ul>   	<p>○ちょっとしたルールの違いによって集団のまとまり方に变化が表れることに注目させて、気づいたことを話す場面を設定する。</p> <p>○並び替えるための方法を全員が共通理解するために、話し合う場面を設定する。</p> <p>○活動を通して感じたことや気づいたことを伝え合うことで、協力することの大切さを共有できるようにする。</p>

### (ウ) 実践②の考察

導入で「5つの約束事」を伝えたことで、度々確認しながら活動を進めることができた。緊張をほぐすための活動では、ねらいどおり雰囲気よく活動を始めることができた。「チェンジアップ」は、人に伝える力を意識しながら活動させることを心がけた。最後の「無言と目を閉じた条件で並び替え」の課題を解決するため、事前に4つのグループで話し合う時間を設けた。生徒同士の意見交換やグループごとの発表が、大変活発で印象に残った。無言で行う活動や目を閉じて行う活動を通して、「伝える手段」は言葉だけでないことを実感させることができた。

振り返りや、アンケートでの生徒の感想と参観教員の感想を表 4 に示す。

表4 生徒と参観教員の感想

生徒の感想	参観教員の感想
<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分の意見をグループで話すことができた。これからは、授業でも発表できるように頑張りたい。</li> <li>・どんな困難なことでも、みんなで意見を出し合って協力することを学んだ。</li> <li>・人の話を、よく聴く大切さを学んだ。</li> <li>・しゃべらずに行動するのが難しいことを知って、改めて言葉って大事だと思った。</li> <li>・コミュニケーションの取り方は1つではないことを学んだ。話ができない、目が見えない状態でも人と関わる方法があることに驚いた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・認め合う風土、聴き合う関係づくりのために AFPY の活動は有効である。</li> <li>・「伝える」、「触れる」ことが活動の中に仕組みされており、男女関係なく活動できる様子を見て安心した。</li> <li>・人の考えを受け止める場面で、伝え合う力が育まれると感じた。</li> </ul>

ウ 実践事例③「原籍校における AFPY 活動（11月）」

(7) 実践③の概要

十種ヶ峰青少年自然の家で AFPY の活動を実践した5か月後に、2回目の AFPY の活動を学級活動で実践し、コミュニケーション能力の変容を調査した。

(4) 実践③の実際

実践③の活動内容を表5に示す。

表5 実践③の活動内容

AFPY 活動内容 (※詳細については、巻末参考資料参照)	留意点
<p>1 緊張をほぐすための活動</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・じゃんけんであいこ</li> <li>・ぱちぱちインパルス</li> <li>・「5つの約束事」の確認</li> <li>・ルック→出会いの輪</li> <li>・ニモ</li> </ul> 	<p>○楽しみながら心身のウォームアップを行い、安心できる雰囲気づくりに努める。</p>
<p>2 信頼関係を確認する活動</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・スタンドアップ</li> </ul> 	<p>○数名で手をつなぎ、同時に立ち上がるための方法を話し合う場面を設定する。</p>
<p>3 意思疎通を図るための活動</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・みんなであいこ</li> </ul>	<p>○みんなと気持ちをそろえるために、意識したことを伝え合う場面を設定する。</p>
<p>4 課題解決のための活動</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・シークレットコード</li> <li>・振り返り</li> </ul> 	<p>○正しい経路を見つけるための方法を各グループで話し合う場面を設定する。</p> <p>○活動を通して感じたことや気づいたことを伝え合うことで、達成感を共有できるようにする。</p>

#### (ウ) 実践③の考察

「シークレットコード」では、各グループで話し合いながらルートを選択し、経路を忘れてたメンバーに対して自然と教え合う姿が印象的であった。先にゴールしたグループも、活動の最初に伝えた「全員がゴールすることが目標」を意識して、他のグループを支援していた。活動の終わりには、生徒の中から「失敗することが大切」という発言があった。普段の生活では、失敗することに不安を感じる人が多いが、この活動を通して生徒の「失敗」に対する価値観に変化が表れた。

振り返りや、アンケートでの生徒の感想と参観教員の感想を表6に示す。

表6 生徒と参観教員の感想

生徒の感想	参観教員の感想
<ul style="list-style-type: none"> <li>・じゃんけんの活動を通して、視野を広げることや、もっと周りの人を見て行動していきたい。</li> <li>・人前で話すことは、あまり得意ではなかったけれど、AFPYの活動で勇気をもつことができた。</li> <li>・グループや班で活動するときは、人の意見をしっかりと聴いて、自分の意見を言うようにしたい。</li> <li>・失敗することの大切さを学んだ。普段の授業でも、失敗を恐れずに発表できたらいいなと思った。</li> <li>・みんなで意見を言い合い、実行して失敗しても、また新しいことを考えて実行することができた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・楽しそうに活動する子どもたちの笑顔を見て、うれしく感じるとともに、遊び心を学級経営に取り入れていきたいと感じた。</li> <li>・話しやすい環境・関係づくりや必要な声かけを学ぶことができると感じた。</li> <li>・AFPYの活動について改めて知る機会になった。</li> </ul>

#### エ 実践事例④「生徒会リーダー研修会（12月）」

##### (7) 実践④の概要

1月から新たに生徒会執行部を務める1・2年生のリーダー研修会で、AFPYの活動の実践やそれぞれの活動のねらいについて説明を行った。来年度以降、生徒会執行部が主体となり、様々な生徒会活動でAFPYの活動を活用してほしいと考える。

##### (イ) 実践④の実際

実践④の活動内容を表7に示す。

表7 実践④の活動内容

AFPY 活動内容 (※詳細については、巻末参考資料参照)	留意点
1 緊張をほぐすための活動 <ul style="list-style-type: none"> <li>・フライングソーセージ</li> <li>・じゃんけんチャンピオン</li> <li>・ジップザップ→スピードラビット</li> </ul>	○自分だけが成功して満足するだけでなく、互いに教え合う場面を設定する。
2 課題解決のための活動 <ul style="list-style-type: none"> <li>・チェンジアップ (トランプ ver)</li> </ul>	○活動を通して感じたことや気づいたことを伝え合うことで、達成感を共有できるようにする。
3 AFPYの理論とねらい	○学んだことを、これからの生活に生かすことの重要性について説明する。
4 活用に向けた提案	



#### (ウ) 実践④の考察

活動中は笑顔と笑い声にあふれ、「チェンジアップ」では、自分だけがトランプの数を知っている時と、自分だけが分からない時の行動の変化が実感できたことで、よく周りを見ることや、互いに助け合うことなど日頃の生活に置き換えた振り返りを行った。

アンケートによると、10名中全員がAFPYの活動を生徒会行事、委員会活動で活用したいと回答し、リーダー研修会でAFPYの実践や提案をした意義を実感した。

振り返りや、アンケートでの生徒の感想と参観教員の感想を表8に示す。

表8 生徒と参観教員の感想

生徒の感想	参観教員の感想
<ul style="list-style-type: none"> <li>・視点を変わると、今まで見えなかったものが見えるようになる活動をした。これからは、今までの考え方を少しでも前向きに変えていきたい。</li> <li>・人と協力して活動をする事ができた。自分の意見を伝えて、人との関わりを大切にしていきたい。</li> <li>・失敗したときでも、あまりネガティブにならないことを学んだ。これを生かして、どんなことにもまず挑戦してみたい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・雰囲気づくりがとても大事な活動だと感じた。</li> <li>・人間関係づくりの活動のよさや大切さに気づく事ができた。</li> <li>・指導者がルールを分かりやすく説明し、指示を理解しているかの確認があり、子どもたちもスムーズに楽しく活動できた。</li> </ul>

### (3) 研究の結果と考察

#### ア 3つの要素別の分析

原籍校での2回の実践を終え、生徒のコミュニケーション能力の変容を調べるため、入所前後に使用した5件法の自作アンケート(表1)を用いて調査を実施した。その調査結果の平均値をグラフに示したのが図3～5である。

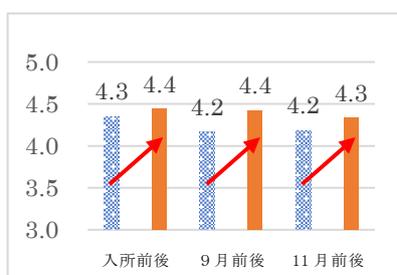


図3 聴く力の変容

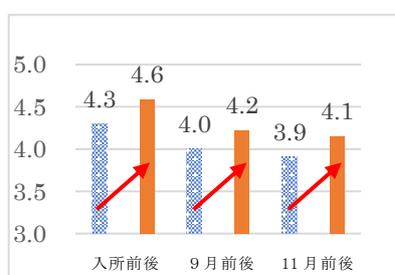


図4 話す力の変容

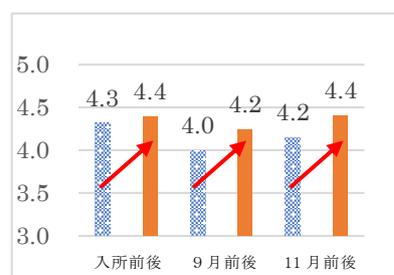


図5 伝え合う力の変容

3つの要素別に分析した結果、入所前後、AFPY実践前後において数値の上昇があることから、生徒のコミュニケーション能力を育むことにAFPYの活動は効果的であると言える。生徒の「どんな困難なことでも、みんなで意見を出し合って協力することの大切さを学んだ。」という感想から、AFPYの活動の中でも、特に協力して課題を解決する活動や多様な考えが出る活動など、伝え合う必然性のある活動に、より効果が見られた。

#### イ アンケート項目別の分析

アンケートの項目別に分析してみると、項目3、8、10において、6月の入所前と11月授業後を比較した場合、数値の上昇がある(図6～8)。さらに、入所前後、9月授業前後、11月授業前後においても明らかな数値の上昇がある。項目3は「自分と違う意見にも耳を傾

けることができる」、項目8は「話し合い（学び合い）活動が好きである」、項目10は「意見交換で考えを深めることができる」である。この3つの項目はすべて、話し合いに対する肯定的な変化であり、めざしている「話し合う集団づくり」につながるものである。

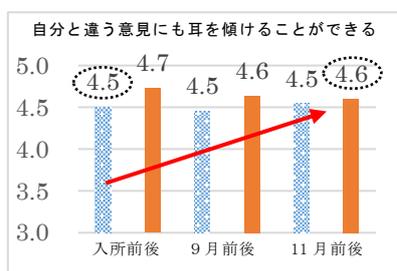


図6 項目3の変容

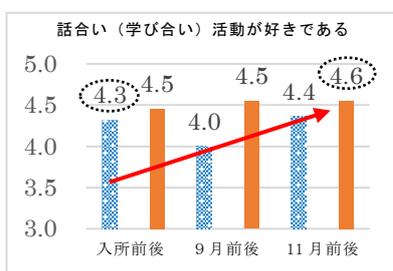


図7 項目8の変容

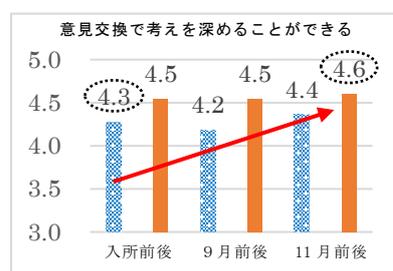


図8 項目10の変容

項目5「自分の意見や考えを発言できる」では、6月の入所前と11月授業後を比較した場合、数値の変化はないものの、AFPYの活動前後で数値の上昇が極めて大きいことが分かった（図9）。AFPYの活動を通して、他者に関心に向け、互いを認め合う中で自分の考えを自然に表現することができ、個人の成長が見られたと言える。また、生徒の「今まで人前で話すのは、あまり得意ではなかったけれど、AFPYの活動で勇気をもつことができた」という感想からも、生徒にとって、自分の考えを少しでも人に伝えることができたという経験が、自分の自信につながっていることも分かった。AFPYの活動では教科の授業と異なり、学力に関係なく誰もが意欲的に参加でき、自分の考えを気軽に発言することができるという利点を感じた。

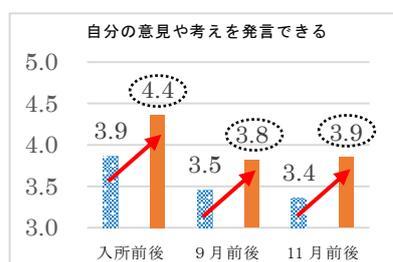


図9 項目5の変容

### ウ 話し合う集団づくりのポイント

AFPYの活動においては、安心できる雰囲気の中で活動することが重要で、その中で共有体験を通して、互いを認め合う環境がつけられていったと推察できる。その環境の中だからこそ、「聴く・話す・伝え合う」活動が活発になったと考えられる。

また、生徒の「失敗は恥ずかしいと思うこともあるけれど、今日は楽しみながら失敗できた。」という感想からも、失敗を楽しむ活動をあえて取り入れることで、失敗が許される環境がつけられ、生徒の安心感につながるということである。AFPYの活動の中には、自分の苦手なことや、今まであまり経験のないことにチャレンジできる場が与えられており、失敗を楽しみながら自分の可能性を広げるチャンスがいくつも用意されている。雰囲気づくりの大きな鍵として、有効であると言える。

## 3 研究のまとめと今後の課題

### (1) 研究のまとめ

本研究では、生徒のコミュニケーション能力を育むために、AFPYの活動を実践し、検証した。その結果、AFPYの活動をすることで、生徒の「聴く・話す・伝え合う」力を育むことができた。発言のしやすい環境には、以下の3点が必要である。これらは、AFPYの実践を通して生まれた効果でコミュニケーション能力の育成につながったと考えられる。

- ・ 考えや気づきを伝え合う必然性のある課題
- ・ 誰もが意欲的に参加でき、自分の考えを気軽に発言することができる場の設定
- ・ 失敗が許され、互いを認め合うような安心感のある環境

このように、本研究の結果は、「学校生活の中に AFPY の活動を取り入れることで、発言のしやすい環境が構築され、コミュニケーション能力を育むことに効果がある」という仮説を支持するものであったと言える。

私自身 AFPY の活動を通して、今まで見逃していた生徒の些細な言動に注目することや、思考中に優しい態度で見守る姿勢、ちょっとした変容でも褒めることなど、自分自身の変化があったことを実感している。このように、子どもを支援することが、子どもとともに自分自身の成長につながることを経験できた。

## (2) 今後の課題

AFPY の活動を通して育まれたコミュニケーション能力を、普段の生活につなげていくことが重要である。一時的ではなく、実生活の中で生かしていくことを考えた際、コミュニケーション能力を育み、向上させるためには、全校体制でもっと時間をかけた取組が必要である。今後は、生徒のさらなるコミュニケーション能力の育成をめざすために、次の2つに取り組んでいきたい。

1つ目は、継続的な AFPY の活動の「実践と普及」である。本研究を通して、AFPY の活動はコミュニケーション能力を育むことに効果があることが分かり、より短い間隔で継続的に行うことで、さらに高い効果が得られると考える。具体的には、学級担任として学級経営に AFPY の活動を取り入れていく。生徒会活動では、生徒同士でもコミュニケーション能力を高め合う取組が必要であると考え、生徒が主体的に委員会活動を進め、生徒会行事などで AFPY の活動を活用できるように支援していきたい。また、研修職員会議及び、学級 PTA や学校開放講座等の機会に AFPY の活動を実践して、本校教職員をはじめ保護者や地域住民にも AFPY に対する理解や関心を深めてほしいと考える。

2つ目は、「AFPY の考え方を生かした授業づくり」である。日々の授業の中で、本研究を通して分かった発言のしやすい環境に必要な「課題提示・場の設定・環境づくり」の3点を踏まえた授業をつくっていくことが重要である。AFPY の活動の中だけでなく、日頃の学校生活の中でも生徒のコミュニケーション能力を育てていくことで「話し合う集団づくり」に尽力していきたい。そのために、今後も研修を重ね、知識と技量を磨き、県全体への AFPY の普及にも努めていきたい。

今年度、このような貴重な研修の機会を与えていただいた山口県教育委員会、協力をいただいた各団体、山口県十種ヶ峰青少年自然の家の職員をはじめ、ご指導いただいた全ての方々に心より感謝いたします。ありがとうございました。

## 【引用文献】

- \*<sup>1</sup> 菊池 省三、『話し合い指導術』、小学館、2012

#### 【参考文献】

- ・ 山口県教育委員会：山口県教育推進の手引き（平成 31 年 4 月）
- ・ Project Adventure Japan、『グループのちからを生かす 成長を支えるグループづくり』、みくに出版、2005
- ・ Project Adventure Japan、『クラスのちからを生かす 教室で実践するプロジェクトアドベンチャー』、みくに出版、2013
- ・ 甲斐崎博史、『学級ゲーム&アクティビティー100』、ナツメ社、2013
- ・ 諸澄 敏之、『みんなの PA 系ゲーム 243』、杏林書院、2005
- ・ Project Adventure Japan / Adventure Programming Training Manual
- ・ 令和元年度萩市立須佐中学校研修職員会議資料
- ・ 菊池 省三、『話し合い指導術』、小学館、2012
- ・ 菊池 省三、『コミュニケーション力あふれる「菊池学級」のつくり方』、中村堂、2014
- ・ 菊池 省三、『授業がうまい教師のコミュニケーション術』、学陽書房、2012
- ・ 藤井恵美子、『平成 26 年度自然体験活動等長期研修報告書』
- ・ 上野 剛、『平成 27 年度自然体験活動等長期研修報告書』
- ・ 末廣 俊夫、『平成 28 年度自然体験活動等長期研修報告書』
- ・ 土島 亮、『平成 30 年度自然体験活動等長期研修報告書』

#### 【参照ホームページ】

- ・ 文部科学省：新しい学習指導要領の考え方  
[http://www.mext.go.jp/a\\_menu/shotou/new.../1396716\\_1.pdf](http://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/new.../1396716_1.pdf)
- ・ 中央教育審議会「主体的・対話的で深い学び」とは  
[http://www.tochigi-edu.ed.jp/.../h29\\_jyugyokaizen\\_01-2.pdf](http://www.tochigi-edu.ed.jp/.../h29_jyugyokaizen_01-2.pdf)
- ・ 中央教育審議会答申（平成 28 年 12 月）  
「幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領の改善及び必要な方策等について」  
[http://www.mext.go.jp/component/b\\_menu/shingi/toushin/\\_icsFiles/afieldfile/2016/12/27/1380902\\_1.pdf](http://www.mext.go.jp/component/b_menu/shingi/toushin/_icsFiles/afieldfile/2016/12/27/1380902_1.pdf)
- ・ 山口県教育委員会：アクティブ・ラーニング研修資料リーフレット  
<http://www.pref.yamaguchi.lg.jp/.../3802365b543bad92c1daaa71b9>

参考資料 1 AFPY の活動について

1 AFPY について\*2

AFPY とは、「Adventure Friendship Program in Yamaguchi」の略称で、他者とかかわり合う活動を通して、個人の成長を図り、豊かな人間関係を築くための考え方と行動の在り方を学び合う、山口県独自の体験学習法である。AFPY は、様々な活動を通して、「個人の成長」を促し、「自己肯定感の向上」や「自信の回復」などをめざすと同時に、「集団の成長（集団づくり・仲間づくり）」を促し、集団におけるよりよい人間関係づくりをめざすねらいがある。

また、AFPY の活動の分類を、表 9 に示す。

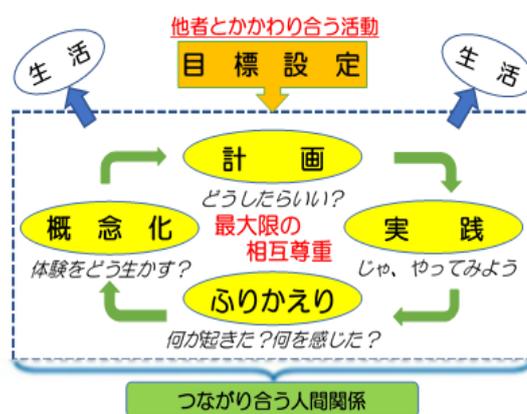


図 10 AFPY における学びのサイクル\*3

表 9 AFPY の活動の分類

①知り合うための活動	互いに知り合うきっかけをつかむこと
②緊張をほぐすための活動	苦手、恥ずかしいと感じても積極的に行動するようになること
③意思疎通を図るための活動	互いに意見や感情を的確に伝えること
④信頼関係を確認する活動	自分は仲間を守られていると実感すること
⑤課題解決のための活動	コミュニケーションをとって協力し合う経験をする

AFPY では、マネジメントサイクルを取り入れ、様々な活動の中で PDCA サイクルをスパイラルのように繰り返すことにより、豊かな人間関係を育むため、体験（活動）のやりっ放しではなく、活動中の子どもたちの言動からグループで起こっている状況をつかみ、適切にフィードバックし、活動中や活動後の振り返りに活かすことが重要視されている（図 10）。

2 萩市・阿武町の各中学校における AFPY 活用状況

今年度、十種ヶ峰青少年自然の家での長期研修を通して、私自身、知識・経験が乏しかった AFPY の活動について詳しく知る機会になった。AFPY は、2002 年に学校や地域でも使うことができるように、山口県の子どもたちの生きる力を育む一つの手だてとして確立した。その AFPY の活動について、今年度の活用状況を近隣の学校に調査を行った。

調査した萩市・阿武町の全 15 校中 9 校で、今年度 AFPY の活動が活用されていることが分かった。主には、学級経営や学校保健安全委員会等の学校行事、全校集会の時間に活用されている。

3 最大限の相互尊重（5つの約束事）

AFPY の活動を行うにあたって、大切にしたい考え方が「5つの約束事」である。これは、自分も含めて、仲間の存在を最大限に尊重するという考え方である。互いに尊重し合うことによって、自己肯定感や自己有用感の高まりを感じ、グループ内に積極的な雰囲気を作り出される。十種ヶ峰青少年自然の家では、頭文字を取り、「あ・い・し・た・こ」（表 10）のキーワードとし

表 10 5つの約束事

あ・・・安全に（心と体）
い・・・一生懸命に
し・・・正直に（公平に公正に）
た・・・楽しく
こ・・・ここにいる（参加する）

て入所団体に紹介している。このキーワードを常に意識しながら活動を行い、活動中や活動後の振り返りに活用した。

#### 4 自己選択・自己決定

AFPY の活動を行うにあたって、大切にしたい 2 つ目の考え方が「自己選択・自己決定」である。これは、自分自身の意思によって、やるかやらないかを含めて挑戦の度合いを選択できるという考え方である。図 11 のように、人は物事に対して今までの知識や経験等によって感じ方が異なり、コンフォートゾーンは、自分自身にとっての安心領域でありストレスは低く思考が停止しており、あまり成長が見られない領域である。反対にパニックゾーンは、未知領域でありストレスが高く何事も受け入れることができない領域である。その間に位置するストレッチゾーンが学習領域であり、適度な負荷がかかり人として成長することができる領域である。しかし、この領域で活動するには、自己決定による挑戦や周囲の協力や信頼が必要になる。大切なことは、ストレッチゾーンの経験を重ね、自分のコンフォートゾーンを更に広げていくことである。

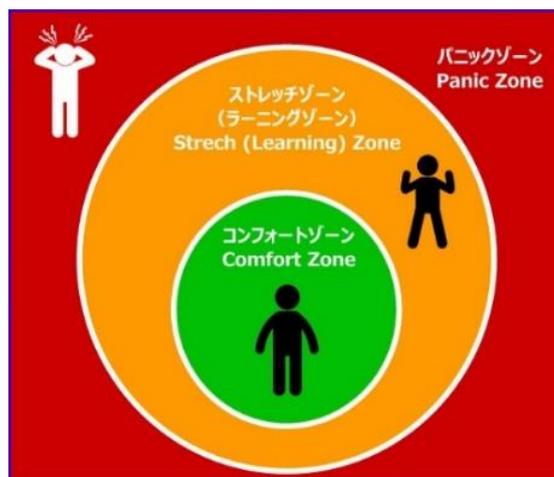


図 11 コンフォートゾーン\*4

#### 参考資料 2 「主な AFPY の活動名称及び活動の手順」

AFPY の活動名称	活動の手順
ラインナップ	①誕生日順などのお題に従って、並ぶ。
ネームトス	①全員で輪になる。 ②自分の名前を言った後、相手の名前を言って、フリースボールを渡す。
キャッチ	①全員で輪になり、隣の人の手ひらに、自分の人差し指を立てて乗せる。 ②キャッチの合図で、隣の人指をキャッチする。
前後左右	①全員で輪になり、手をつなぐ。 ②「前・後・左・右」の指示に従って、軽くジャンプして移動する。
ケンケンパ	①2人組を作る。 ②「ケンケンパ」を口ずさみながら、手または足を使ってリズム遊びを行う。
グーパー	①右手は「グー」で前に突き出し、左手は「パー」で胸に当てる。 ②手拍子等のリズムに合わせて、左右の手を入れ替える。
アイドルとおっかけ	①自分の頭の中だけで、アイドル役と壁役の人を1人ずつ決める。 ②動き回りながら、壁役越しにアイドル役を追いかけ続ける。
VIP とスナイパー	①自分の頭の中だけで、VIP 役とスナイパー役の人を1人ずつ決める。 ②動き回りながら、スナイパー役からVIP役を守り続ける。
チェンジアップ	①トランプを1人1枚、自分だけが分かる状態で持つ。 ②トランプのマーク別、数の順に並び替えを行う。

じゃんけんであいこ	①ファシリテーターと同時にじゃんけんをして、あいこを目指す。 ②実は、足で事前に出すものを示唆していて、視野を広げるねらいがある。
ぱちぱちインパルス	①全員で輪になる。 ②拍手を右回りまたは左回りにテンポよくまわしていく。
ルック	①全員で輪になり、掛け声に合わせて誰か1人を見つめる。 ②互いに目が合った人とハイタッチして、場所を入れ替わる。
出会いの輪	①全員で輪になり、掛け声に合わせて右または左の人の方を向く。 ②互いに向きが合った人とハイタッチして、場所を入れ替わる。
ニモ	①全員で輪になり、1名ニモ役を決める。 ②ニモ役の人をインタビューで見つけ、後ろにつながる。
スタンドアップ	①2人組で向き合い両手をつなぎ、足の先をつけたまま同時に立ち上がる。 ②4人組、8人組と人数を増やして取り組む。
みんなであいこ	①全員で輪になり、じゃんけんをする。 ②全員が「グー・チョキ・パー」のいずれかで一致するまで行う。
シークレットコード	①6×6の正形状に36個のスポットマーカーを並べる。 ②予め決められた正しいルートを、協力して見つけ出す。
フライングソーセージ	①両手の人差し指同士をくっつけた状態で、遠くの1点を見つめる。 ②遠くの1点を見つめたまま、①の状態の指を視界の中に入れる。
じゃんけんチャンピオン	①たくさんの人とじゃんけんをする。 ②3回勝った人から、順に輪の状態で並ぶ。
ジップザップ	①全員で輪になり、その輪の中に1人立つ。②「ジップ」と指名された人は、その場にしゃがみ、両隣の人を「ザップ」と言ってバリアを作る。
スピードラビット	①全員で輪になり、その輪の中に1人立つ。 ②「動物の名前」で指名された人と両隣の人で、動物の形を作る。

#### 【引用文献】

\*<sup>2</sup> 山口県教育庁 社会教育・文化財課ホームページ

<http://www.pref.yamaguchi.lg.jp/cms.a50400/afpy/tebiki.html>

\*<sup>3</sup> 山口県教育庁 社会教育・文化財課 AFPY だより

\*<sup>4</sup> リベラルライフ：心理学 <http://taiki01.com/category/心理学>